

【おみやげデザイン会議】（ワークショップ）

全3回のワークショップを実施。3回の詳細は以下の通り

【第1回ワークショップについて】

・開催概要

日時：2024年9月21日 13時30分～15時

会場：芽室町議場

参加者：30名

・内容

芽室で「ロゴ」をつくることを町民に知ってもらうこと、またデザインやロゴが町にどんな効果をもたらすかを伝える講義を実施。参加者から新しく作る【おみやげ】を通じて「起きてほしいこと」「起こってほしくないこと」を出し合ってもらいました。

【おみやげ（デザイン）を通じて「起きてほしいこと」は？】

芽室に人がたくさん来る

芽室の場所がどこかで一発でわかる

想像を超える、感動する、持っていたい

芽室のおいしいものを世に広めることができる

今っぽいトレンドのあるお洒落なデザインに

意味のある誰からも長く愛されるデザインに

POPな明るい目の引くものと、シックでオシャレな少し落ち着いたもの両方ある

芽室町のことを知ってもらえる

ときめくという感情を与えたいたい、喜んでほしい

「根室じゃないよ、芽室だよ」が伝わってほしい

芽室と根室を区別しやすく

一度見たら忘れない

楽しくなってほしい

芽室町に興味を持ってほしい

芽室に住んでいない人でも一度は見たことがある

職場にもっていったときに「それかわいい」とか「うける」など1つの話題になる

土産でもらったら捨てるではなく何かに使えるかもと置いておける

このデザインをミルだけでみんなが笑顔になってほしい

芽室町のことを知ってもらえる

わが町を自慢したくなる

デザインをきっかけに会話が出き、人と人がつながれる

若い世代に注目される！

SNSで「良いもの手に入れた」と拡散してほしい

「芽室町」という地域でどんなものの（魅力）があるのか伝わってほしい

芽室町のお土産の良さ、独自性があることを認知してほしい

お土産デザインを使った映える二次利用されやすいもの

新たな広報的なものになってほしい

面白いというか贅沢

トマト嫌いをなくしたい

芽室に来たくなるように、色が綺麗

芽室町民なら申請なしで使える

わ一つとうれしい気持ちになってもらいたい

ユニバーサルな、みんなに分かる

点字がついているか
色弱や色盲の型だけに見えるメッセージ
環境に良い、土にかえる
他のグッズ化にも繋がる（マスク、ファイル、タオル、トートバッグ）
ユメミルメムロがもっと知れ渡る
あの歌すごく面白い
素材から芽室産のパッケージ化（農産物の皮や色素）
見た目、手触り、香りなど、心に残る
芽室の街並み、景観、地図などを裏面に隠して印刷
開いた時に感動する、行きたくなる、
芽室町を意識するきっかけ作り
すでにあるデザインの活用、使い続ける（芽室遺産の紙袋、コーントート）
芽室で暮らしていて1週間に5回以上見かけたい
デザインをきっかけに会話ができ、人と人とが繋がる
2次利用されやすいものであらたな後方的なものに

【おみやげ（デザイン）を通じて「起こってほしくないこと」は？】

他の商品と並んだ時に溶け込んでしまうもの
ゴミにはなってほしくない
自分ごとにならない
人を傷つける、暗い気持ちになる
そっこう捨てられるもの
買って終わり、食べて終わり、見て終わりにしてほしくない
昔っぽい、古い、ダサいデザインにはしたくない
何なのか分からないもの
デザインしても売れなかったり、結果につながらないもの
「これダサい」って拡散してほしくない
次は買わないと思わせたくない
不味いというイメージ
行ってみたいと思ってもらえない
興味を持ってもらえない
デザインが変わるとイメージが統一されない

【当日の映像】

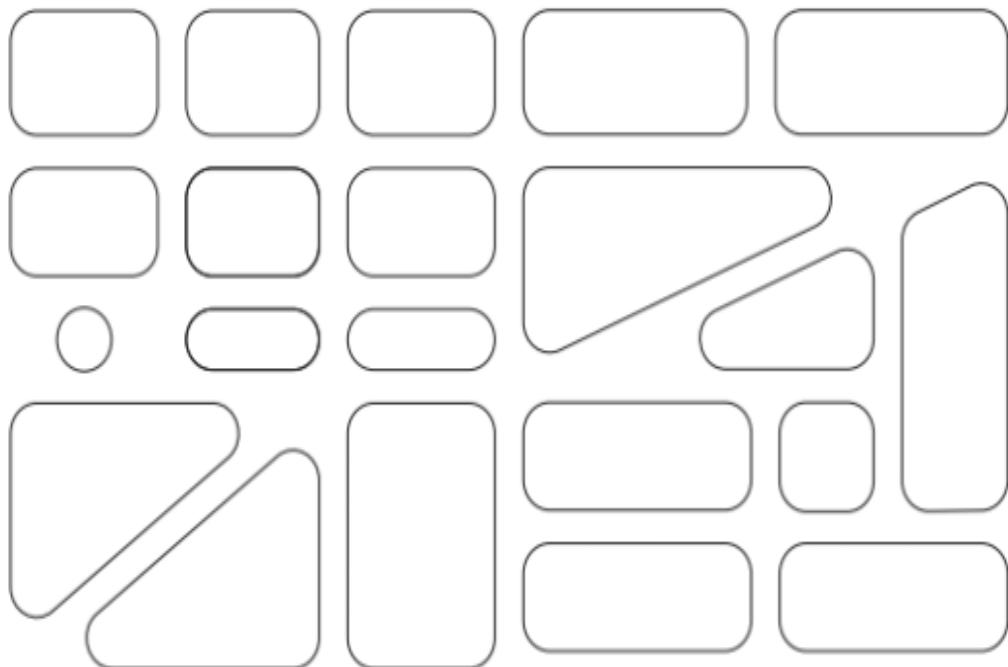
<https://youtu.be/suVOE4-m0dc?si=41v9mACMPu1aPwXA>

【当日の写真】



※1回目のワークショップからの着想（第2回目ワークショップで発表）

芽室はこれまで「Memuro」「メムロ」と表現されることも多く、音が似ている「根室」と間違われることが少なくなかった。「芽」の露出を増やし、「芽」で楽しめる要素があることで、芽室の認知を広げる可能性があり、さらに空白にすることで「誰もが使える状態」 + 「誰もが新たに作り出せる状態」を作り出せるロゴで進めることとした。



【第2回ワークショップについて】

・開催概要

日時：2024年10月12日 13時30分～15時

会場：芽室町役場3階

参加者：20名

・内容

1回目のワークショップを参考に、芽のロゴとなる基本の形を策定した。そこにどんな色をいれるといいか、どんなイラストが入るといいかをワークショップの参加者を通して、考えてもらいデザインの参考とするワークショップを開催した。

【参加者が記入したシート】

【第二回資料】第2回お土産会議成果.pdf

第2回
芽室おみやげデザイン会議

△芽室の特別な色。「芽室カラー」を書き出してみよう！

カラー名	説明
	たとえば 朝もやピンク △ 枠内に色を 塗ってください。
	十勝川 △ 枠内に色を 塗ってください。
	嵐山 △ 枠内に色を 塗ってください。
	阿寒林 △ 枠内に色を 塗ってください。
	火田 △ 枠内に色を 塗ってください。
	ニッテン △ 枠内に色を 塗ってください。
	小麦 △ 枠内に色を 塗ってください。

【会場の様子】



・第1回と第2回のワークショップの意見を経て制作したロゴについてワークショップで書いていただいた絵をもとに「芽」のロゴをたくさん量産し、そのロゴを「紙袋」に表現することで「みんなで作った」という要素を存分に活かした成果物とした。

皆が描いたイラストをもとに、紙袋を制作した。





1日の空

いろんな空。いろんな光。
朝焼の中から見える空。歩きながら見る空。日が暮れてグラデーションになった空。机間に置がまたたく空。

いろんな人

いろんな人がいる。でもみんなそれぞれ楽しそう。
子供と散歩してたり、一人でたそがれたり、チームでがんばってたり、ちょっと伸びびしてみたり、子育てしてたり、デートしたり、みんなで駆け抜けたり、応援したり。

室の色
空の色 グラデーション
空の色 グラデーション
おだやかな
情熱レッド
幼い黄色
若い黄色

空の色 グラデーション
青春の色
おだやかだけど
たのしい色
やさオレ
おだやかなグリーン

【第3回ワークショップについて】

・開催概要

日時：2024年12月7日 16時00分～17時

会場：芽室町役場3階

参加者：21名

・内容

1. 魅力創造課からこれまでの取組のサマリー

テレビ番組、ラジオ露出等の紹介

おみやげ開発やふるさと納税の取組について

2. デザイナー（コーディネーター）から制作の経緯について

3. ワークショップ1 出来上がったロゴについての意見や感想

4. ワークショップ2 今後どんなグッズなどができるか

・制作したロゴや紙袋を参加者にみてもらい、フィードバックをもらう

・できた芽ロゴを今後どのように活用していくかのアイデアを出し合ってもらう

・ワークショップ1. デザインに関しての意見

-答えがほしい

-全部盛りもいいが、フォーカスしてもいい

-万人受けするかどうか

-自分のデザインがイラストになって嬉しい

-もう少し小さいほうが使いやすい → 今後展開

-クイズなのかわかりにくい

-おしゃれだけどわかりにくい

●全部盛り、フォーカスした方が良いという意見について

今回のデザインは「みんなでつくる」。たくさんの人の意見を形にした。

フォーカスする、万人受けするは、今後の個別の展開で検討していくのがそもそも今回の取組。（使用権フリーで自由な活用を奨励）

・ワークショップ2. 今後の展開

【1. デザインの工夫・提案】

- シンプルさ・わかりやすさ

- デザインが細かすぎて見づらい → もっとシンプルに大きなデザイン。

- デザインを「種別」や「ジャンル」に分ける（例：野菜、動物、季節シリーズ）。

- 紙袋の「大きさを小さく」して手軽に使えるように。

- 「芽室」らしさを強調するロゴやコンテンツを入れる。

- 「イラストやアイコン」をもっとわかりやすく配置する。

- 遊び心・ストーリー性

- デザインに「ストーリー性」を持たせる（例：続きを読むくなるBossのCM風）。

- 「まちがい探し」やクイズの要素を取り入れる。

- 子供も楽しめるよう、探す・考える要素を追加する。
- 多用途デザイン
 - 紙袋を「折り畳んでハガキやミニバッグ」として使えるようにする。
 - 紙袋デザインを「トートバッグ」や「Tシャツ」「帽子」に展開する提案。
 - 紙袋の「裏面」や「側面」にも楽しい仕掛けを入れる。

【2. 再利用・持続可能なアイデア】

- 日常生活での再利用
 - 紙袋をランチバッグやエコバッグとして活用。
 - 紙袋を折り畳んで「小物入れ」や「パッケージ」として再利用。
 - 「パソコンケース」や文具入れとして転用できるサイズやデザインにする。
 - 「小さいサイズ」を展開し、日常で使いやすくする。
- 持続可能な提案
 - デザインの「再利用方法」をQRコードなどで紹介。
 - 環境配慮を意識したエコ素材やSDGs対応のアピール。
 - 「ゴミにならない紙袋」としてアイデアや事例をSNSでシェアする。

【3. コラボレーション・広がり】

- 地域・企業連携
 - 農産物（じゃがいも、トマト）とコラボし、そのデザインを反映する。
 - JAや地域企業とコラボしてパッケージ展開や商品のPRをする。
 - 「芽室ブランド」を打ち出し、観光や特産品のアピールにつなげる。
 - モンベルとのコラボ
- イベントやSNS活用
 - QRコードを配置し、読み取ることで「楽しみ方」や「ストーリー」を発信。
 - SNS (TikTok、Instagram) でデザインや活用事例をシェアする企画。
 - 「レビュー企画/ご褒美」としてQRを通じたプレゼント企画を実施。
- 教育・アート体験
 - 学校や地域イベントで紙袋を使った「なり絵」「デザイン体験」を実施。
 - 子供たちが考えたデザインを発表・共有できる場を設ける。
 - 学校のパンフレットに使えそう

【4. 遊び心・アイデア提案】

- 体験型企画
 - QRコードを読み込むと「ゲーム」や「ストーリー」が展開する仕掛け。
 - デザインに合わせて「色んな展開」や「収集要素」を加える（例：シリーズもの）。
 - TikTokなどを使った「PR動画企画」や参加型イベントの提案。
- 参加型デザイン

- デザインやストーリーの「続き」をSNSやイベントで共有する。
- 「次回のテーマ」や「参加型アイデア」を募集し、ユーザーと共に創する仕組み。

【5. デザインの多機能性と商品展開】

- 多用途の提案
 - 紙袋を「ハガキ」や「ミニバッグ」にも使えるデザインへ。
 - トートバッグやTシャツなど、デザインを商品展開する。
 - 「積み重ね型デザイン」（複数の紙袋で一つの絵柄が完成する仕組み）。
 - スマホケース
- 価格と品質
 - 紙袋を「¥300」程度で販売し、より手軽に提供する案。
 - 紙袋の質感やデザインを改善し、長く使いたくなる工夫をする。

【6. 地域と芽室ブランドの強化】

- 地域らしさの表現
 - 「芽室の野菜」や「特産品」をテーマにデザインを作成。
 - 芽室の特色や文化をデザインを通じて発信する。
 - カントリーサインとして策定
 - 年賀状
 - 缶バッヂ
- ストーリー性と連携
 - 「芽室の歴史」や「地域の物語」を反映し、デザインにストーリー性を持たせる。
 - 地元の子供たちや住民が参加できるデザイン企画やイベントを開催。

【会場の写真】

